## FOLFIRI + Bev

対象 結腸・直腸癌

投与順	抗癌剤名	投与量	手技	投与時間•速度	投与日(d1,d8等)
1	ベバシズマブ	5mg/kg	DIV	90→60→30min	d 1
2	イリノテカン	$150\mathrm{mg/m^2}$	DIV	2hr	d 1
3	レボホリナート	$200  \text{mg/m}^2$	DIV	2hr	d 1
4	5FU	$400\mathrm{mg/m^2}$	DIV	15min	d 1
5	5FU	2400mg/m <sup>2</sup>	DIV	46hr	day1∼day3

1コース期間	2週間			
総コース数	PDになるまで			
投与開始基準	・好中球≥1500 ・PLT≥10万 ・HGB≥9.0 ・T-Bil≤施設基準上限(1.2)×1.5 ・AST、ALT≤100(肝転移:≤200) ・クレアチニン≤施設基準上限(1.06)×1.5			
減量規定・中止基準	Grade3の白血球減少、好中球減少、血小板減少、非血液毒性 5-FU (bolus)、イリノテカンは、副作用状況により投与しない場合がある。 ベバシズマブ: 創傷治療遅延、静脈血栓塞栓症、可逆性後白室脳症→治療まで休薬 Grade2,3のネフローゼ症候群→Grade1まで休薬 消化管穿孔、動脈血栓塞栓症、高血圧脳症、クリーゼ、重度の出血、G4のネフローゼで中止再投与不可 尿蛋白1+となったらUTP/Ucre)即定⇒UTP/Ucre:1.0gを超えたら腎透析内科へコンサルトを検討    減量レベル			
2コース目以降の投与開始基準	投与開始基準に準じる			
コース間での休薬の規定	なし			
投与量の増量規定	なし			
注意すべき副作用	骨髄抑制、下痢、吐気、口内炎、コリン作動性症状、高血圧、尿蛋白、消化管穿孔、創傷治癒遅延など			

## FOLFIRI + Bev

13-7期間 14日

投与所要時間 4時間15分(1回目)→3時間45分(2回目)

→3時間15分(3回目以降)

ルート	Rp	薬剤名	標準投与量	投与方法	投与時間	day1
主管		カイトリルバック 100mL デカドロン 4.95mg ★イメンドカプセル 内服		div	30min	0
	2	生食 50mL		div	全開	0
	3	生食 100mL(250mL) アバスチン 【 】mg	5mg/kg	div	90→60→30min	0
	4	生食 250mL カンプト 【 】mg ★Rp5を同時投与	150 mg/m <sup>2</sup>	di∨	2hr	0
側管	5	生食 250mL アイソボリン 【 】mg ★Rp4の側管から同時投与	200 mg/m <sup>2</sup>	div	2hr	0
主管	6	生食 50mL 5FU 【 】mg	400 mg/m <sup>2</sup>	div	15min	0
	7	生食 【230mL-5FU】mL 5FU 【 】mg ★インフューザーポンプを用いて	2400 mg/m <sup>2</sup>	div	46hr	0

## コメント

•アバスチン	/の希釈液・	初回は生食250ml	2回日以隆牛食100ml

・嘔気コントロール不良時は、カイトリル⇒アロキシへの変更を考慮。

Reference:		